〔千葉医学　93：78，2017〕

〔編集後記〕

つい先日正月だったと思いきや，もう３月に入ってしまいました。スギ花粉舞う中，皆様いかがお過ごしでしょうか。私事ですが，ここ数年，この季節になりますと，目がかゆく，鼻水が出たり，時折せき込んだりしております。自分では信じたくないのですが，どうも私は花粉症になっていたようで，なんとか，マスクや市販の点鼻薬でしのいでおります。都会で生まれ育つと花粉症になりやすいとも言われているようですが，私は，木更津で生まれ，亥鼻の近くで育った，生粋の千葉のシティーボーイであるためなのだと納得するようにしております。

この度も無事に千葉医学雑誌第93巻２号を発刊することができました。今回は，原著論文として，千葉県がんセンター婦人科の井尻美輪先生達からのご報告が掲載されております。子宮頸癌の術後補助療法として放射線治療，同時化学放射線療法，全身化学療法の治療効果を後方視的に検討したものです。症例報告としては，千葉労災病院歯科口腔外科の才藤靖弘先生達から下顎第三大臼歯に多く発生する歯周嚢胞が下顎第二臼歯に発生した珍しい事例の報告が掲載されております。話題としては，千葉大学予防医学センターがWHOと連携して実施している，ジュネーブでの国際機関視察研修に関して，千葉大学国際教養学部の塚田かおり先生達からのご報告が掲載されております。学会報告としては，第1319回千葉医学会例会としての消化器・腎臓内科学（旧第一内科）例会と第1345回千葉医学会例会としての第34回神経内科教室例会の抄録が掲載されております。それぞれ発表数が14，24とのことで，そのほかにも特別講演や大学院の研究報告もあり盛会であったことがうかがえます。雑報としては，先端化学療法学講座の滝口裕一教授の指導のもとに投稿された医学部４年生の山本衣里奈さんによる抗がん剤の進歩の歴史に関する論文が掲載されております。このような学部学生さんの投稿は千葉医学雑誌の活性化につながると思います。今後もこのような投稿があると大変嬉しく思います。最後には，第八回千葉医学会賞を受賞した千葉大学医学部附属病院輸血・細胞療法部の三村尚也先生の多発性骨髄腫の治癒に向けた新規分子標的療法の開発に関する論文が掲載されております。

このように今回も，皆様のおかげで盛沢山となり，大変ありがたく思っております。

さて，昨年末には亥鼻でいろんなことがありました。OB・OGの先生方にもいろいろご心配おかけしていると思いますが，春に入って新年度を迎えるにあたって，千葉大学がさらに飛躍できるよう，私共教員，学生ともに力を合わせて参りたいと思っておりますので，今後も暖かいご支援を賜れれば幸いです。

（編集委員　岩瀬博太郎）